

# 認知症患者と介護者による 抑肝散加陳皮半夏の同服効果についての検討

社会医療法人文珠会 亀田北病院 (北海道) 宮澤 仁朗

認知症患者の睡眠障害やBPSD (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia : 行動・心理症状) は、介護者の精神的・身体的負担を増大させて心身の疲弊に帰結する最大の要因といっても過言ではない。

今回、抑肝散加陳皮半夏を患者と介護者が同時内服することによって、患者の不眠や徘徊、攻撃性が軽減するとともに介護者の不安やイライラ、うつ症状を緩和し、双方の症状改善さらには生活の質 (QOL : Quality of Life) 向上も得られた2症例を報告する。そして患者・介護者同服の意義とその臨床的可能性について考察し言及したい。

**Keywords** BPSD、子母同服、抑肝散加陳皮半夏、睡眠障害、QOL

## 緒言

日本は今超高齢社会にあり、認知症患者の増加と同時に介護者の負担増も深刻な社会問題と化している。特に認知症患者の睡眠障害やBPSDは、本人のみならず介護する者の精神的健康にも多大な影響を及ぼし、さらには虐待や無理心中に至る不幸な例も決して少なくない。

近年、抑肝散加陳皮半夏が認知症患者の不眠やBPSDに対して有効であることが報告されている<sup>1,2)</sup>。しかし、本剤を患者のみならず介護者も服用する「認知症患者と介護者の同時内服」による効果については十分に検討されていないと言えよう。本稿では患者と介護者に抑肝散加陳皮半夏を同時処方することで両者の症状の改善とQOL向上を認めた2症例を通してその臨床的意義を検討した。

## 症例報告

### 症例1 親子

92歳 女性(母) : アルツハイマー型認知症、不眠症

65歳 女性(娘) : 脳梗塞後遺症、不眠症

X-4年頃より記憶記銘力障害、日時の失見当識が出現。近医内科でアルツハイマー型認知症の診断を受けて経口ドネペジル塩酸塩の内服開始。当初は介護保険を利用せず、娘の介護で同居していた。

同居の娘がX年10月右前頭葉に脳梗塞を発症。一時脳外科に入院し、その時期より小規模多機能型居宅介護サービスが開始となった。

X年11月、一部の身体麻痺は残存したが、日常生活には支障がないとの由で娘が退院し再び母親の世話を始めた。しかし脳梗塞発症後、イライラ感の増強、不眠となり近医内科からベンゾジアゼピン系抗不安薬、オレキシン受容体拮抗薬(睡眠薬)が処方される。

娘は脳梗塞後遺症を抱えながら懸命に母親の介護を継続していたが、徐々に親子で言い争いが増えてきて、時にはお互いに粗暴行為へと発展したため、X年12月、小規模多機能型居宅介護ケアマネージャーの紹介で、両者が同時に当院受診、治療開始となった。

母親は頭部CTでは海馬中心の脳萎縮、改訂版長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)は16/30、時計描画検査(CDT)は文字盤配列がいびつ、立方体模写は右下奥行きを描画ができなかった。母親は不安焦燥感、攻撃性の増強とともに不眠、夜間の徘徊が顕在化してきた。しかし介護をしている娘は睡眠薬の内服もあり熟睡していたため母親の行動化を気づくことができず、母親は一人で戸外に出て警察に保護される事態もしばしば見られた。

母親の易刺激的で夜間徘徊等のBPSDを惹起した一要因として経口ドネペジル塩酸塩の賦活・刺激作用も考慮されたため貼付剤へと剤型を変更し血中濃度の安定化を図り、さらに抑肝散加陳皮半夏を追加処方した。娘に対してはベンゾジアゼピン系抗不安薬を漸減法に則り中止し、抑肝散加陳皮半夏を新たに処方した。

1ヵ月後の再診では、二人の関係性の改善を認め衝突の頻度が低下して、当初は残存した母親の夜間徘徊に対しては娘が覚醒して対応できる状態へと移行していった。2ヵ月

後には母親の夜間徘徊も消褪に至る。その後も親子関係は良好で、母親と娘および両者に介入しているケアマネージャーから感謝の意を表された。

## 症例2 夫婦

74歳 男性(夫)：血管性認知症(不眠症、夜間せん妄状態)

72歳 女性(妻)：不眠症、神経症

X年7月、脳梗塞を発症し総合病院に1週間入院。

以降、記憶記銘力障害(同じ文具を忘れて何度も購入、ビュッフェで考えられないほど一品を大量にとってくる、いらいらして易怒的となる、実母の預金通帳を持参して忘れる等)が出現。特に妻へ強く当たることが頻回で妻も耐えることができなくなる。妻の依頼に基づく受診では本人が怒るため、脳外科医師の強い勧めという動機付けで、X+1年3月、当院初診に至る。

初診時に前頭葉症状群で感情失禁などの気分変動も想定されたが、脳の健康診断と説明し労いの言葉をかけることで本人は怒ることなく素直に諸検査に応じた。頭部CTでは左前頭葉に低吸収域、HDS-Rは25/30、CDTと立方体模写は正常であった。脳梗塞後遺症の診断で脳血管拡張剤(ニセルゴリン)と抗てんかん薬(バルプロ酸)で治療を開始。夫と妻の両者の精神状態を観察・配慮しつつ通院治療を継続した。

しばらく状態は不変であったが、治療3ヵ月経過した頃より徐々に記憶記銘力障害が顕著となり、食思不振による体重減少、夜間せん妄も出現した。妻に対する依存心が増強し、妻の姿が見えないと興奮し探し回る行動も認められた。そして一時でも妻の姿が見えないと妻に対して感情的となり大声を発する言辞、さらには妻を突き飛ばして怪我を負わせる情動異常、暴力行為に進展した。運転中も周囲の車に対して声を荒らげて興奮状態を呈した。そのため血管性認知症の診断の元、運転は禁止とし抑肝散加陳皮半夏を処方し経過観察とした。

夫の病状悪化後には妻も単独で筆者の外来を受診し、夫の介護疲れ、イライラ感の亢進、何度も中途覚醒する不眠を吐露した。そのため妻に対しても抑肝散加陳皮半夏の処方を開始し夫の介護保険の申請を勧め安心感を与えた。

夫婦でほぼ同時期に抑肝散加陳皮半夏の内服を開始したが、内服3週間後には夫の妻に対する依存心や興奮状態、

妻のイライラ感と不眠も改善し夫婦の関係性も良好となった。その後、夫は介護保険でデイサービスへの通所を開始し、介護している妻も自身の時間を持ち介護にゆとりを持てるようになった。現在も二人で同時に抑肝散加陳皮半夏を内服しているが、夫は情動安定を得て興奮状態を呈することなく経過し認知機能の悪化も認められない。妻は夫への対応に不安を感じることなく介護に自信が付き余裕を得ることができたと述懐している。

なお、今回提示した2症例において、抑肝散加陳皮半夏に起因すると考えられる副作用はみられなかった。

## 考 察

本症例において、抑肝散加陳皮半夏の同時投与は、認知症患者のBPSD改善のみならず、介護者の精神的安定にも寄与した。抑肝散加陳皮半夏は肝気の亢進を抑え、消化機能を整えることで情動安定と睡眠改善に働きかける漢方薬であり、構成生薬である釣藤鈎および陳皮のセロトニン神経系への作用<sup>3, 4)</sup>を介した抗不安・抗うつ効果が期待される。

介護者の不安やイライラは、患者の症状悪化を招く「負の連鎖」を形成しやすい。介護者への同時投与は、この連鎖を断ち切る有効な手段となり得るものと考えられる。眞鍋らの報告では、患者と介護者の関係性を「合わせ鏡」と捉え、双方の心理状態が相互に影響し合うことが示されている<sup>5)</sup>。小児領域の「子母同服」にならい、認知症領域でも「患者・介護者同服」が有効である可能性が報告されている<sup>1, 5)</sup>。

また、服薬への抵抗がある認知症患者に対して介護者が同じ薬を服用することで安心感が得られ、服薬継続につながるという「納得の構造」も重要である。これは、患者が「自分だけが薬を飲まされている」という孤立感を抱かず、介護者との共感的な関係性が築かれることによるものである。病識欠如の認知症患者は受診を拒否する傾向を認めるが、介護者も同時に受診する大義名分によって本人の受診が円滑になることも筆者は経験している。

さらに、認知症患者の睡眠障害の改善効果は、単なるQOL向上にとどまらず、認知症の進行抑制にも寄与する可能性が考慮される。近年注目されているグリーンパティック

系(glymphatic system)は、睡眠中に脳内の老廃物を排出<sup>6)</sup>する役割を担っており、深い睡眠がその機能を活性化<sup>7)</sup>させることが報告されている。この機能が障害されると、アミロイドβ蛋白などの異常蛋白の蓄積・沈着が進行し、認知症の病態進行に関与する。抑肝散加陳皮半夏が睡眠の質を改善することで、グリンパティック系の活性化を介した神経保護効果も期待される。また、REM睡眠行動障害(RBD)を伴う認知症患者に対しても抑肝散加陳皮半夏の有効性が報告されており<sup>8)</sup>、非ベンゾジアゼピン系薬剤との併用による安全性の高い治療選択肢として注目されている<sup>2)</sup>。本症例でも、睡眠導入薬の減量・中止が可能となり、日中の活動性や注意力の改善が得られた点は、薬剤選択の観点からも意義深い。

## 結 語

抑肝散加陳皮半夏の患者・介護者同時内服は、認知症患者の睡眠障害やBPSDの改善に加え、介護者の精神的安定にも寄与し、負の連鎖を断つと同時に円滑な在宅生活の維持に大いに貢献する効果をもたらしたと考える。今後、より多くの症例を通じてその有効性と適応条件を検討するとともにアルゴリズムの構築を図り、認知症ケアにおける新たな視点として治療戦略・モチーフの確立を目指したい。

## 【参考文献】

- 1) 眞鍋雄太: 認知症の行動・心理症状に対する抑肝散加陳皮半夏の有効性の検討. 老年精神医学雑誌 27: 438-447, 2016
- 2) 根本健二: 不眠症に対する抑肝散加陳皮半夏とオレキシン受容体拮抗薬の併用が著効した3症例. phil漢方. 87: 22-23, 2022
- 3) Pengsuparp T et al.: Pharmacological studies of geissoschizine methyl ether, isolated from *Uncaria sinensis* Oliv., in the central nervous system. *Eur J Pharmacol* 425 (3): 211-218, 2001
- 4) Ito A et al.: Antianxiety-Like Effects of Chimpi (Dried Citrus Peels) in the Elevated Open-Platform Test. *Molecules* 18 (8): 10014-10023, 2013
- 5) 眞鍋雄太: 認知症×老老介護×同服 - 患者・介護者同時投与の臨床的意義 -. phil漢方 102: 22-24, 2024
- 6) Xie L, Kang H, Xu Q, et al.: Sleep Drives Metabolite Clearance from the Adult Brain. *Science* 342 (6156): 373-377, 2013
- 7) Natalie H, Maiken N, et al.: Norepinephrine-mediated slow vasomotion drives glymphatic clearance during sleep. *Cell* 188 (3): 606-622, 2025
- 8) Manabe Y. A Preliminary Trial in the Efficacy of Yokukansan-ka-chimpi-hange on REM Sleep Behavior Disorder in Dementia With Lewy Bodies. *Front Nutr.* 7: 119, 2020